

巻 頭 言

年 頭 所 感

会 長 岩 田 仁

新たな年の幕開けに当たり、洋上で船内の仲間とともにまた陸上で家族とともに新年を迎えた会員の皆様に新年のご挨拶を申し上げます。

新たな気持ち、新たな決意で新年をお迎えしたことと存じます。

今年も幸多い、安らかな年でありますようお願い申し上げます。



昨年は我々船員には忘れられない痛ましいセウォール号の転覆事故がありました。船の重責を担う船長が乗客や乗組み員の救助指揮も取らずに下着姿で船橋から救出される映像に大きなショックを受けました。茶の間のテレビ画面に大写しされる度に船員としてやるせない気持ちになった会員も多かったことと思います。

テレビのワイドショーでは転覆した船体映像をバックに事故原因について疑問符のつくような解説もありました。この事故は、操船、積み荷、などが取りざたされておりますが、それだけではないような気がします。日頃からの乗組員の安全教育と訓練などソフト面での見落としや不注意の連鎖の結果と申せましょう。転覆の引き金となった原因は一つかもしれませんが、伝える多くの情報を重ね合わせ考えてみますと今回の転覆に至るには多くの原因があったものと推測されます。セウォール号の事故から学ぶべきものは多い。日本では起こり得ないと切っ捨て捨てるのではなく、この事故を他山の石とし、もう一度謙虚に各自の持ち場に多方面から光を当て見落とし思い込みが無いかな再点検し「事故ゼロ」に生かしてほしいものです。

伝統ある全船協の会長に就任して半年が経過しました。全船協は初代の大型練習帆船日本丸、海王丸の建造運動による商船教育基盤の充実運動を契機として発足した十一会を引き継いで創立した協会であり、商船教育の充実と振興の精神は地方の公立商船学校を国立移轄とする運動や、商船学校から商船高専への昇格運動へと引き継がれてきました。

船員教育機関が今後の国際競争のなかで実力を発揮し社会に貢献できる人材を育てていくためには他の教育機関との共学、産業界、地域社会との幅広い連携が必要です。言うところの産、官、学の連携が不可欠です。このような船員教育機関に対する社会的環境の醸成に貢献することこそ先輩から引き継いだ全船協の使命と考えております。

15歳人口の減少、中・高一貫教育の普及・4年生大学への進学率の増加などの影響により高専商船学科への入学志願者は低迷していますが、中学・高校への出前講座、進学ガイダンスへの支援などをこれからも継続し船員教育機関への応援を続けて行く所存です。

皆さんの力を結集して、先輩からの思いを継承してゆくべく決意を新たにしております。